

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077800110		
法人名	社会福法人 大川医仁会		
事業所名	グループホームあおぎり荘		
所在地	福岡県久留米市城島町芦塚804-3 (電話)0942-62-2150		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 10 日	評価結果確定日	平成 28 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は開設以来、地域密着事業所としての理念に沿って、地域との連携に力を注いできた。我々は地域住民の一員であるという意識を職員一人ひとりが自覚し、支え合いの暮らしをモットーとし、良好且つ親密な関係を構築できていると自負している。又、近くには筑後川が流れ、周囲には田園地帯が多く、ゆったりとした時間の中で生活していただける環境が整っている。

更に隣接する事業所と連携が出来るため、単独型の事業所と比較しても、柔軟性、多様性に富んだサービスの提供が実現できている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 2 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は佐賀との県境にあり、周囲は筑後川があり、筑紫平野の田園が広がっている。敷地内には木造平屋建ての2ユニットのグループホームと通所介護サービス事業所が隣接しており、協力や連携を行っている。事業所主催のお祭りでは準備段階から住民と話し合い、当日は大勢が参加する地域に定着したお祭りになっている。職員や利用者も地域の色々な行事に参加するなど、地域との相互的な交流が行われている。また職員の研修に力を入れ、夜間想定避難訓練、重度化した場合や看取り期の対応等も積極的に行われている。利用者に安らぎのある生活を送ってもらい、笑顔で過ごすことができるよう取り組んでいる事業所である。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は地域とのつながりを大切にし、その人らしくやすらぎのある生活を送れるようお手伝いします」という理念は、職員全員で考えた理念であり、職員の目の届く場所に掲示し、理念の共有と実践に努めている。	理念は、職員から募集し作り上げている。新たな理念は意義を確認しつつ理解を深める研修を行っている。毎朝唱和し、初心・基本に立ち返るとともに理念が実践に活かされるよう日々の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会（隣組）に加入し、地域行事には積極的に参加している。又、老人クラブ・保育園・小学校等と定期的に交流を図り、気軽に訪れていただけるように努めている。	自治会に加入し、事業所が一つの隣組となつて地域情報が回覧されている。職員は清掃活動等に参加し、利用者とともに地域行事などに参加している。保育園との交流、小学校の授業協力や中学生の体験学習、老人クラブの事業所見学では認知症の理解を得る話をしたり、婦人会等と定期的に交流が行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所運営推進会議には、地域の民生委員、区長にも参加していただき、認知症についての理解を深めていただけるように努めている。又、小学校の見学等も積極的に受け入れている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議の場において、事業所の取り組み、入居者状況の報告等を行っている。又、各委員から頂く客観的なご意見やアドバイスは積極的にサービスに取り入れるように努めている。	会議は利用者、家族や地域住民も参加して、2か月に1回開催されている。利用者やサービスの実際、行事の計画、評価への取り組み状況の報告等を行っている。委員からは避難経路に段差があり、スロープを付けたらどうかとの意見があり、すぐに対応して現在はコンクリートで段差を解消している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	久留米市の介護保険課や地域包括支援センターには運営推進会議にも参加していただき、状況の報告を定期的に行っている。又、必要時にはこちらから出向いたり、電話をして質問やご協力の依頼などを行っている。	行政担当者とは日頃から電話や窓口等で現状報告や事故報告、空室状況の報告や相談等を行っている。事業所便りや行事の案内状などを持参し、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を掲げ、定期的に内部研修会を実施し、身体拘束の排除に向けた取り組みを継続している。	職員は身体拘束の弊害について研修で学んでいる。玄関にセンサーはあるが、施錠されておらず、外出傾向がある利用者に対しては、同行する対応を行っている。身体拘束の正しい理解に努めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員による虐待防止に努め、利用者に対しては敬意を持った対応を心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、久留米市の出前講座を活用し、関する制度について理解を深める取り組みを行っている。	成年後見制度については、入居の相談時に家族へ説明している。職員には内部研修や出前講座を利用して研修を行い、必要時や相談時に活用できるように取り組んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に十分な時間を取り、ご理解していただいた上で契約に至るように、疑問点などに傾聴し、ご納得頂いた上で契約していただけるように心掛けている。又、改定時は個別に説明を行い、同意・承諾を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両棟玄関に御意見箱を設置、定期的にご利用者満足度調査を実施、家族会や面会時にご家族のご意見やご要望等を頂く機会を複数設け、サービスの提供に反映できるように努めている。	家族交流会では食事やゲームをして意見を出しやすい雰囲気を作ったり、面談時に最近の状況を伝えながら意見を聞くように努めている。家族から職員の異動がある場合は入れ替わりを知らせてほしい、との意見があり、お便り等でできるだけ家族に知らせる対応を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、担当理事との個人面談を行い、職員からの意見を聞く機会を作っている。又、面談の結果については担当理事より報告があり、事業所の運営に反映できるように努めている。	管理者は日頃から職員の意見を聞く機会を設けているが、年に2回の人事考課では、理事と一緒に職員の面談を行い意見交換も行っている。また無記名の満足度調査も実施している。休憩時間の取り方やユニット間の壁をパーテーションに変更してほしいという、職員の要望に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が希望する勤務形態で勤務できるように、結婚や出産等の状況に応じた配置や勤務を行っている。又、事業所の収支状況に応じた給与水準の見直しを理事会に定期的にはたらきかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用については、年齢・性別等の制限は設けていない。又、資格取得などの自己啓発に努める職員には、勤務面でサポートする等の配慮を行っている。	採用選考では性別、年齢の制限を設けていない。定年は60歳であるが1年ごとの契約延長も可能である。職員の希望に応じて資格取得にも配慮されている。職員間でも信頼関係を築き、働きやすい職場環境に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人では利用者の事を「ゲスト」とお呼びし、利用者の方々は、自分たちにとっては、目上の方、年上の方、お客様であるという認識を持ってもらうように、日頃から会議や研修の際に事例を採り上げながら啓発活動に努めている。	管理者は利用者の人権教育及び啓発活動に努めている。全職員は内部研修において高齢者虐待防止の研修を受けており、日頃の支援や態度を振り返る機会となっている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や勤務実績を考慮しながら、研修会への参加をはたらき掛けている。又、研修企画のチームを作り、内部研修会の企画立案、実践している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のサービス事業所協議会が主催する交流会や研修会には、積極的に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に必ずご本人と面談する時間を作っていただき、少しでも不安を解消していただけるように努めている。又、ご要望等ある場合は、サービスに反映することができるように心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談は複数回行い、ご家族のご意見に傾聴することで、不安な点や疑問点を引き出し、解消できるように取り組むことで信頼関係の構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご本人、ご家族からアセスメントを聴取し、要望や不安点、ニーズの把握に努め、事業所に求められるサービスが適切に行える様に取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所は利用者ご本人にとって「家」である為、家庭的な雰囲気大切にできるように心掛け、職員は生活を共同する立場であるということを認識し、利用者との関係の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者ご本人とご家族の関係が希薄にならないよう、事業所での生活状況や心身の状態などを面会時等を介して定期的に報告している。又、ケアの内容についても必要に応じて報告、相談を行い、利用者の支援に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊の支援は積極的に行い、ご家族のみならず、馴染みのある家や店などへも継続して足を運んでいただけるように支援している。	入居前や家族の面会時に知人、友人、馴染みの場所等を把握し、理美容室や買い物などの送迎支援を行っている。隣接した同法人の通所介護サービスを利用している顔馴染みや親せき等に会いに行く場合は、職員が声掛けしたり同行の支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席などにも配慮し、気の合う方同士でゆっくりと談笑していただけるような環境作りに努めている。又、会話がスムーズになるように職員が利用者同士の間に介する等、配慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者やそのご家族との相談も受け付けており、必要に応じてフォローする等の支援を継続している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりの意思や希望をサービスに反映できるように、日常的なモニタリングを行い、月に1回のカンファレンスの場で検討し随時見直しを図っている。	職員は、日々の関わりの中で積極的に声掛けし、思いや意向の把握に努めている。家族から利用者の生活歴や習慣などの情報をもらい、意思疎通が困難であっても、本人に寄り添い、目の動きや表情等から推し測り、その思いを大切に受け止め、本人本位に検討し、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況を把握するために、ご家族や医療機関、入所前にご利用されていたサービス機関等から情報を収集し、それを基にサービス内容の検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごされ方を記録し、アセスメントを参考にし、カンファレンスで状態の把握、情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成・更新する上では、ご本人の状態、ニーズ、ご家族の要望等様々な情報を把握、整理し、現状に応じた計画書の作成に努めている。	職員は、日頃から本人や家族の意見や要望がもらえるように努めている。会議では、担当者や本人に関わる関係者の気づきや意向を反映しながら本人本位の介護計画を作成している。利用者の状態変化や必要に応じて随時見直しを行っている。その際は、家族から同意の署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成、記録することで、サービスの実施状況の把握を行いやすくし、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご要望に沿えるように、その時々で発生するニーズに柔軟に対応できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員をはじめとした地域団体の代表の方々と定期的に情報を交換し、協力体制の構築に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけられていた医療機関と、入所後も可能な限り継続できるように、医療機関にも協力を求めている。又、看護職員を窓口 to 適切な医療を受けられることができるよう、各医療機関との連携に努めている。	希望する医療機関の受診を支援している。病院送迎は、職員2名（看護師と職員）体制を整えおり、基本看護師の職員が付き添っている。受診結果はその都度家族に報告し共有している。またかかりつけ医との連携を密にし、情報を共有している。急病時も適切な医療が受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を有する職員を窓口、隣接する事業所の看護職員とも協力体制を構築し、個々の状態に応じた医療を受けられることができるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院される際は、慣れない環境に動揺されることもあるので、できるだけ頻回に面会に行くように努め、状態の変化の把握、医療機関との情報交換を密接に行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事業所のターミナルケアの方針について説明し、重度化された場合は医療機関と連携し、可能な限りご家族の意向に沿うことができるように職員間で検討している。最期まで事業所でご希望される場合は、穏やかに最期を迎えていただけるようにケアを提供するように心掛けています。	看取り介護についての同意書があり、主治医が看取りと判断した時に再度説明し、確認を行い同意を得ている。また重度化した場合など改めて家族の意向を確認して、家族、主治医や職員全員、関係者で方針を共有して支援に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ依頼し、救急救命講習を実施している。又、内部研修においても、急変時の対応等について定期的に勉強している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜間を想定した避難訓練を定期的に実施しており、年に2回は消防署立会いの下、年に1回は運営推進会議の場を活用し、区長、民生委員の方も合同に避難訓練を行っている。	災害時の対応マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回の避難訓練、通報や避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を行っている。また夜間想定や昼間想定も訓練もっている。地域の方の参加もあり、協力体制の構築に努めている。非常用備品は事業所内のスタッフルームに備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには職員間で定期的に注意し合い、親しみを込めた敬語を心掛けている。又、入浴時や排泄時など基本的な部分から、プライバシーへの配慮には十分に注意を払うようにしている。	法人全体の研修や久留米市出前講座を依頼し、職員の意識向上を図っている。職員は利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心がけている。利用者への対応や言葉使いについて、気づきがあれば職員同士で注意し合える環境が整っている。個人情報について職員に守秘義務の徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が困難な方には、表情や反応など観察し、思いや希望を読み取れるように努めている。又、日常生活の中で自己決定ができる取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や日向ぼっこなど希望された時には一緒に付き添い、食事のペース、入浴時間等も個々の希望に応じたケアに努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を着替えられる際には、本人が選ばれるように配慮し、髪型、スキンケアなどの身だしなみにも注意を払っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に2回嗜好調査を実施し、嗜好に応じたメニューを検討している。又、減塩、刻み食、ミキサー食等、病気や嗜好状態に合わせた食事形態で提供するようにしている。	食材専門業者によるメニューを取り入れ、旬の食材で栄養バランスに配慮されている。四季折々の行事食やお誕生日の当日にケーキを用意し、プレゼントが渡されるなど、利用者の楽しみとなっている。また利用者と職員は一緒に同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量をチェック表に記載し、状況の把握に努めている。又、ミキサー食や減塩食等、嗜好状態、嚥下状態、既往に応じた食事形態で食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が利用者個々に声掛け、介助を行い、口腔ケアを実施している。又、ケア実施時に口腔内の状態を確認し、異常の早期発見に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成、記入し、個々の排泄能力に応じた支援を行えるよう、排泄パターンの把握に努め、時間ごとの声掛け、ケアに役立っている。	排泄チェック表を作成し、尿意のない利用者にもトイレでの排泄に取り組み、時間を見計らって誘導している。下着類も利用者の心身状況や日中、夜間などに合わせて使い分けている。夜間帯もトイレで気持ち良く排泄できるようにするなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳等を飲んでいただき、体操やレクリエーション等の運動を行い、自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間はお一人おひとりの希望される時間に入ってもらえるようできるだけ配慮し、精神状態により拒否が見られる場合等は、時間を置いたり、対応方法を替えるなどし、気持ちよく入浴していただけるように努めている。	午後からの入浴を行っているが、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。またバラの花や入浴剤を使って雰囲気を変えて入浴を楽しめるようにしている。入浴の拒否の利用者には無理強いはしないで間隔をおき、声掛けの職員を変えて、気持ちいい入浴をしてもらっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて休息を取っていただけるよう配慮したている。又、必要に応じて個別にチェック表を作成し、睡眠や休息の時間、頻度の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されている薬の種類や副作用等を把握し、薬の変更がある場合は、説明書を閲覧し、全職員で情報の共有に努めている。又、服薬種類変更時には、状態の変化に注意を払い、医療機関への報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、残存機能を活かしながら洗濯や掃除、運動や手芸等、無理なくできる範囲で行っていただけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのご希望や、家族の要望に応じて外出支援を行っている。ご家族と一緒に外出したいと希望された場合は、必要に応じて職員が同行させていただいたりしている。	事業所裏の土手は地域の方のウォーキングコースで、利用者の散歩コースにもなっている。隣接の通所介護サービスの車で車椅子を利用し、四季折々の花見やドライブまた地域のイベントに出掛け楽しんでいる。また家族の協力で外出や外食に出掛けている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で個人の金銭を管理しているが、希望がある場合は、可能な限り個人で管理していただけるようはたらきかけている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にもご協力していただき、希望される時には電話で話ができるように支援している。なかなか面会の時間が取れないご家族は、電話の時間を多くすることで、利用者の精神の安定に努めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や空調には常に注意を払い、清潔感を保ち過ごしやすい空間作りに努めている。又、建物内のレイアウトも季節に応じた飾りつけを行い、空間から季節を感じていただけるよう配慮している。	共有空間は、明るく清潔で整理整頓され、利用者の動線、車椅子対応や利用者同士の関係性などに配慮されている。生花や手芸作品、イベントの飾り物などで季節感を出し、行事ごとの利用者の写真も飾られている。小鳥の餌付け場所を設けて、リビングからその様子を眺めることができるなど、利用者が居心地よく過ごすための工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのみならず、ソファやコタツ等配置し、思いのまま自由に過ごしていただけるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ご本人の身体状況にも配慮しながら、ご家族とも相談し、好みの物や使い慣れた物を取り入れ、居室内のレイアウトを検討し、安全で居心地良く過ごしていただけるように努めている。	居室の入り口は手づくりの表札や手芸作品が飾られている。職員は家庭から持参された加湿器やエアコンの湿温度管理を行っている。利用者其々は馴染みの物や使い慣れた寝具、こたつ、テレビ、仏壇、壁時計、カレンダー等、身の回りの品を持ち込んでいる。好みのものや写真を飾るなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの身体状況に応じた介助パーや手すりの設置を検討し、残存機能を活かした安全な生活が送れるように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は地域とのつながりを大切にし、その人らしくやすらぎのある生活を送れるようお手伝いします」という理念は、職員全員で考えた理念であり、職員の目の届く場所に掲示し、理念の共有と実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会（隣組）に加入し、地域行事には積極的に参加している。又、老人クラブ・保育園・小学校等と定期的に交流を図り、気軽に訪れていただけるように努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型サービス事業所運営推進会議には、地域の民生委員、区長にも参加していただき、認知症についての理解を深めていただけるように努めている。又、小学校の見学等も積極的に受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議の場において、事業所の取り組み、入居者状況の報告等を行っている。又、各委員から頂く客観的なご意見やアドバイスは積極的にサービスに取り入れるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	久留米市の介護保険課や地域包括支援センターには運営推進会議にも参加していただき、状況の報告を定期的に行っている。又、必要時にはこちらから出向いたり、電話をして質問やご協力の依頼などを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を掲げ、定期的に内部研修会を実施し、身体拘束の排除に向けた取り組みを継続している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、職員による虐待防止に努め、利用者に対しては敬意を持った対応を心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、久留米市の出前講座を活用し、関する制度について理解を深める取り組みを行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に十分な時間を取り、ご理解していただいた上で契約に至るように、疑問点などに傾聴し、ご納得頂いた上で契約していただけるように心掛けている。又、改定時は個別に説明を行い、同意・承諾を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両棟玄関に御意見箱を設置、定期的に利用者満足度調査を実施、家族会や面会時にご家族のご意見やご要望等を頂く機会を複数設け、サービスの提供に反映できるように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、担当理事との個人面談を行い、職員からの意見を聞く機会を作っている。又、面談の結果については担当理事より報告があり、事業所の運営に反映できるように努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人が希望する勤務形態で勤務できるように、結婚や出産等の状況に応じた配置や勤務を行っている。又、事業所の収支状況に応じた給与水準の見直しを理事会に定期的にはたらかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用については、年齢・性別等の制限は設けていない。又、資格取得などの自己啓発に努める職員には、勤務面でサポートする等の配慮を行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人では利用者の事を「ゲスト」とお呼びし、利用者の方々は、自分たちにとっては、目上の方、年上の方、お客様であるという認識を持ってもらうように、日頃から会議や研修の際に事例を採り上げながら啓発活動に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や勤務実績を考慮しながら、研修会への参加をはたらき掛けている。又、研修企画のチームを作り、内部研修会の企画立案、実践している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のサービス事業所協議会が主催する交流会や研修会には、積極的に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に必ずご本人と面談する時間を作っていただき、少しでも不安を解消していただけるように努めている。又、ご要望等ある場合は、サービスに反映することができるように心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談は複数回行い、ご家族のご意見に傾聴することで、不安な点や疑問点を引き出し、解消できるように取り組むことで信頼関係の構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	利用者ご本人、ご家族からアセスメントを聴 取し、要望や不安点、ニーズの把握に努め、 事業所に求められるサービスが適切に行える 様に取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	事業所は利用者ご本人にとって「家」である 為、家庭的な雰囲気大切にすることに心掛 け、職員は生活を共同する立場であるとい うことを認識し、利用者との関係の構築に努め ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	利用者ご本人とご家族の関係が希薄にならない よう、事業所での生活状況や心身の状態な どを面会時等を介して定期的に報告してい る。又、ケアの内容についても必要に応じて 報告、相談を行い、利用者の支援に努めてい る。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊の支援は積極的に行い、ご家族の みならず、馴染みのある家や店などへも継続 して足を運んでいただけるように支援してい る。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席などにも配慮し、気の合う方同士で ゆっくりと談笑していただけるような環境作 りに努めている。又、会話がスムーズにな るよう職員が利用者同士の間を介する等、配 慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退所された利用者やそのご家族との相談も受 け付けており、必要に応じてフォローする等 の支援を継続している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりの意思や希望をサービスに反映できるように、日常的なモニタリングを行い、月に1回のカンファレンスの場で検討し随時見直しを図っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況を把握するために、ご家族や医療機関、入所前にご利用されていたサービス機関等から情報を収集し、それを基にサービス内容の検討を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごされ方を記録し、アセスメントを参考にし、カンファレンスで状態の把握、情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成・更新する上では、ご本人の状態、ニーズ、ご家族の要望等様々な情報を把握、整理し、現状に応じた計画書の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成、記録することで、サービスの実施状況の把握を行いやすくし、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご要望に沿えるように、その時々で発生するニーズに柔軟に対応できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員をはじめとした地域団体の代表の方々と定期的に情報を交換し、協力体制の構築に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけられていた医療機関と、入所後も可能な限り継続できるように、医療機関にも協力を求めている。又、看護職員を窓口 to 適切な医療を受けることができるよう、各医療機関との連携に努めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を有する職員を窓口、隣接する事業所の看護職員とも協力体制を構築し、個々の状態に応じた医療を受けることができるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院される際は、慣れない環境に動揺されることもあるので、できるだけ頻回に面会に行くように努め、状態の変化の把握、医療機関との情報交換を密接に行い、早期退院に向けた取り組みを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事業所のターミナルケアの方針について説明し、重度化された場合は医療機関と連携し、可能な限りご家族の意向に沿うことができるように職員間で検討している。最期まで事業所でご希望される場合は、穏やかに最期を迎えていただけるようにケアを提供するように心掛けている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署へ依頼し、救急救命講習を実施している。又、内部研修においても、急変時の対応等について定期的に勉強している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜間を想定した避難訓練を定期的実施しており、年に2回は消防署立会いの下、年に1回は運営推進会議の場を活用し、区長、民生委員の方も合同に避難訓練を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには職員間で定期的な注意し合い、親しみを込めた敬語を心掛けている。又、入浴時や排泄時など基本的な部分から、プライバシーへの配慮には十分に注意を払っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の趣味趣向を把握した上でコミュニケーションを図り、言葉だけではなく表情を読み取ることで自己決定の自由が損なわれないように配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	単調なペースにならないように、個人のご希望や生活リズムを尊重し、その日の心身の状況に応じた柔軟なケアを心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性や希望に応じて、身だしなみは勿論、おしゃれを意識して頂けるような言葉かけを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に食事をとりながら、家庭的な団欒作りに努めている。又、季節の食材を取り入れ、食事の中からも季節感を感じていただける様に配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量をチェック表に記載し、状況の把握に努めている。又、ミキサー食や減塩食等、嗜好状態、嚥下状態、既往に応じた食事形態で食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの口腔状態に合わせた口腔ケアを毎食後に実施することで、清潔保持、誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成、記入し、個々の排泄能力に応じた支援を行えるよう、排泄パターンの把握に努め、時間ごとの声掛け、ケアに役立てている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝きな粉牛乳をお勧めし、自力排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間はお一人おひとりの希望される時間に入ってもらえるようできるだけ配慮し、精神状態により拒否が見られる場合等は、時間を置いたり、対応方法を替えるなどし、気持ちよく入浴していただけるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活のリズムを把握し、本人の希望される就寝時間で夜間気持ちよく睡眠をとっていただけるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されている薬の種類や副作用等を把握し、薬の変更がある場合は、説明書を閲覧し、全職員で情報の共有に努めている。又、服薬種類変更時には、状態の変化に注意を払い、医療機関への報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から、生活歴や趣味、特技等の情報収集を行い、日常的なサービスの中に取り入れるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて外出の支援を行っている。可能であればご家族にも協力して頂き、外出に同行して頂いたりしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自分で金銭を管理されている方は居らず、事業所で管理しているが、希望があればご家族の同意の下、管理していただける様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、ご家族と面会や電話、手紙のやり取りなどが出来るように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や空調に配慮し、共有空間では和室とテーブル、ソファ等お好きなお客さまと過ごしやすくなるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気持ちが落ち着かれるよう、利用者同士の関係も考慮したテーブルの席次に配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される以前から使い慣れた物や、写真等、馴染みのある物や飾りを持ってきていただき、自宅とのギャップを出来るだけ小さくできるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に考慮した居室レイアウトを検討し、挙動が見られる際には、すぐに職員が対応するように配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない